

< 実践事例 杉並区立大宮中学校 >

1. 取組・活動名

「パラリンピックを知り、障害者理解を深めよう」

2. 取組・活動のねらい

- パラリンピアンへの講演、デモンストレーションを見て本質を知る。
- 障害があっても、目標をもって前向きに努力することの大切さを知る。
- 障害のある方の生活を知り、自分がどう行動すればよいか考えるきっかけとする。
- パラリンピックの種目の見学、体験を通して2020年に向けての意識を高める。

3. 教育課程上の教科名・時数

「総合的な学習の時間」
パラリンピック種目紹介・体験 3種目「各2時間」

4. 実施上の工夫

- ・パラリンピック・アスリートの中でも金メダリストを招へいし、本物の金メダルに触れさせた。
- ・近隣小学校にも声をかけ、小中合同授業、地域のイベントとして実施した。
- ・障害者の生活を理解するために、事前に障害者、高齢者の生活について学習した。
- ・見学だけでなく、興味関心や探求心を高めるために、代表生徒による体験を実施した。
- ・オリパラ学習係を公募し、生徒中心に学習を進めた。

5. 本取組・活動の内容



「体験授業・パラ陸上競技」

- ・本校に隣接する陸上競技場で、小中一貫教育連携校の小学生と一緒に体験を行った。
- ・競技用車いすをお借りして生徒が実走したり、代表児童・生徒と400m対決を実施したりするなど貴重な体験となった。
- ・アスリートは先天的な下肢欠損であるが、スポーツが好きで何事にも前向きに生活されていることが伝わってきた。



「体験授業・ゴールボール」

- ・体育館にゴールボールのコートを設営し講演の後にデモンストレーション、対戦を実施した。
- ・無音、無声の状況の中で行う競技のため、見ている生徒も集中し、チームプレイによる互いの信頼感、視覚障害者であるがゆえの研ぎ澄まされた集中力を感じることができた。



「講演・ブラインドマラソン伴走」

- ・アスリートが全力を出し切れるようにサポートする立場として、パラリンピックの講話だけでなく、視覚障害者への日常のサポート方法についてもお話しいただいた。
- ・アスリートだけに注目が集まるが、伴走者も共に戦っているという高い意識が伝わってきた。

6. 成果

- ・障害者スポーツを見学・体験することを通して、障害があってもアスリートとして努力する力強さを感じることができた。
- ・障害者の日常生活を知り、また、その不自由さを感じることで、自分でもできるサポートの必要性を知ることができた。
- ・金メダルという夢をかなえたが、それで終わりではなく、その先も努力されていることを知ることができた。
- ・小中合同授業を実施することにより保護者の参観も増え、地域としてオリンピック・パラリンピックへ向けての意識を高めることができた。
- ・数種類のパラリンピック種目を知ることによりパラリンピックを身近に感じ、他の種目への探求心を高められた。